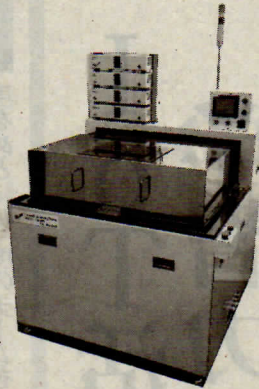


アジア中心に海外進出

中国に実験センター

ブルー・スターR&D 代理店網を拡大

【相模原】ブルー・スターR&D（相模原市中央区、柴野美雪社長、042・711・7721）は、超音波バリ取り洗浄装置事業で海外市場に進出する。第1弾として中国に進出している日系販売会社と代理店契約を結び、近く中国・北京に「実験センター」を新設する。さらに11～12月にタイ、インドネシアにも代理店網を拡大し、同様のセンターを開設する。2017年には北米にも進出する計画だ。海外進出に伴い、年間売上高を3年後に現在の3倍に当たる10億円を目指す。



超なる主力となる海外展開の主力となる超音波バリ取り装置「PERION-DB 4800」

現地の代理店はブルー・スターR&Dの超音波バリ取り洗浄装置「PERION-DB 4800」（平均価格800万～900万円）を購入・配置。実験センターを運営しながら販売につなげる。同センターではユーザ

に向けて同装置を紹介しながら、操作や性能を実際に見学できるようにする。ブルー・スターは代理店に対して、インターネットを通じて装置

の使用方法やノウハウを提供する。併せて、装置を稼働させて、現地顧客への認知度向上を図り、拡販につなげる。中国や東南アジアでは人件費が高騰し、バリ取りの自動化ニーズが増えているという。これを踏まえ、まずアジアを中心に海外展開を進める。ただ、柴野佳英会長は「超音波バリ取り機の認知度は低

く、実際に超音波でバレンない」と話す。まずは自動車業界向けに拡販する考えだ。